JIYD

2016

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム（JIYD）

年次報告書

Japan Initiative for Youth Development
Annual Report 2016

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
Japan Initiative for Youth Development

〒108-0074　東京都港区高輪4-10-63-302
TEL：03-3440-3373　FAX：03-3440-4447
E-mail：info@jiyd.org　URL：http://www.jiyd.org

発行者　馬渕 英晃
発行所　特定非営利活動法人　青少年育成支援フォーラム
発行日　2017年6月1日

9つの価値観を育む「ライフスキル教育」を子どもたちに届けよう
私たちは「Lions Quest ライフスキル教育プログラム」の
普及活動に取り組んでいます

FOCUS 2015～（今、注力すること）

プログラムの継続的な実施を促進するために

① 多様な教育現場に対応する運営方法づくり

教育現場のニーズや社会の実情にあわせ、ワークショップやフォローアップのさまざまな開催方法を提案する

② 実践者や協力者のネットワーク構築

プログラムの実践者や支援者が情報共有・意見交換する場を拡大する

③ 普及活動の継続・拡大に有効な情報公開や広報活動

普及展開の例示や実践事例などの広報ツールを定期的に提供する

*1999年にライオンズクエストプログラムを日本に導入して以来、普及活動の基盤整備・全国拡大を経て、2010年以降は「深化」を大きなテーマとしてきました。2014年度までのFOCUS（注力すること）として、授業実施率の向上、評価事業、教材開発の3点を掲げてきました。評価事業では、2010年から3年間をかけ、実践校でのプログラムの効果を測るプログラム評価が終了し、教材開発では、2013年7月より、それまでの「思春期版」に加えて「小学生版」を開発・導入しました。

理事長あいさつ

理事長　野村　彰男
2017年5月吉日

情報を自ら見極めようとする自立心、周囲の状況に流されないたくましさを育む

2016年はイギリスの欧州連合（EU）離脱と、移民受け入れに後ろ向きで「アメリカ第一主義」をうたうドナルド・トランプ氏の大統領選勝利という大きなニュースが世界を揺さぶりました。この二つの出来事でも、そこで果たしたウェブニュースの影響力、TwitterやFacebookによる情報伝達の役割の大きさが指摘されました。

情報通信革命によって、私たちは今、飛び交う情報の量が飛躍的に大きくなっているだけではなく、そうした情報のどれが真実でどれが嘘かを見極めることも難しい、たいへん厄介な時代に直面しています。偽ニュースが選挙結果にも影響を与えたとされる米大統領選挙からは「ポスト真実の時代」という言葉が飛び出し、明らかに事実でないと分かっている事柄を「もう一つの事実」だと公然と主張する大統領側近まで現れました。

生まれたときからネット社会を生きてきた現在の日本の子どもたちは、私たちの想像を超える多様な情報の渦にさらされていると見るべきでしょう。だからこそ、子どもたちそれぞれに、さまざまな情報の真偽を自ら見極めようとする自立心や、周囲の状況に安易に流されないたくましさを育むことが益々大事になってまいります。私たちが全国各地のライオンズクラブの皆さまと連携して進めている「ライフスキル教育」が、そのための大きな一助となることを信じ、さらなる活動の充実を目指してまいります。

今回、2016年度の「年次報告書」が出来あがりましたので、ライオンズクラブの方々や教育関係者、日頃私たちの活動をご支援くださっている皆様にお届けいたします。今年度も123回のワークショップを開催し2,655名の参加を得ました。これまでワークショップは2日間開催を基本としてきましたが、受講者のニーズに合わせて、多様な開催方式の導入も検討しております。もう一つ、現場で取り組む先生方にとっての朗報は、認定講師・柴咲子先生による『ライフスキル授業お助けレシピ』の出版です。大いに活用していただければと願っております。

報告書にはこの他、大阪府枚方市立桜丘中学校で校長をされた寺西勉先生がライフスキル教育の導入で学校の変革に取り組んだ実践報告や、ライオンズクエストプログラムの紹介映像完成の報告など、さまざまな記事が含まれております。ご一読によって、私どもの活動になお一層のご理解をいただけるようお願い申し上げます。

〈実践事例〉

大阪府枚方市立桜丘中学校（1）

「ライフスキル教育」のパワーで学校を変革！ 学校長の戦略を聞く

校長として赴任した3校すべてで「ライフスキル教育」を推進されてきたパワーみなぎる先生です。毎年度、子どもたちの成長記録として学校生活の様子を撮りだめ、年度末にはスライドショーを作成し、修了式で必ず披露されているそうです。学校のトップとして学校を発展させるべく、具体的な策を一つ一つ打ち続けてきた、その取り組みをご紹介します。

プロフィール
大阪府出身。平成29年3月まで大阪府枚方市立桜丘中学校に校長として勤務。枚方市立楠葉中学校他2校で保健体育科教諭。その後、枚方市教育委員会、大阪府教育委員会首席指導主事。これまで3校に校長として勤務、この4月から枚方市立長尾中学校へ異動、現校長。枚方市立中宮中学校のときにライオンズクエスト「ライフスキル教育」研修を実施。山田中・桜丘中と研修を実施。

大阪府枚方市立
桜丘中学校 校長*
寺西 勉 先生

*講演時

ライフスキル教育との出会い

「ライフスキル教育」との出会いは、平成23年、今から6年前に当時赴任していた大阪府枚方市立中宮中学校でした。当時の教育長から「ライフスキル教育をやってみてくれ」と言われたのがきっかけでした。結果、校区内にある1中学校3小学校の全教員がワークショップを受講しました。

カリキュラム化することが大事

中宮中学校では、同校の教員とともに私自身もワークショップを受講し、各自、自分の引き出しが増えました。しかし、ライフスキル教育の授業を学校全体で実施するために必要なカリキュラムを組むことができませんでした。そのため、中宮中学校では実践を広げることができませんでした。カリキュラム化ができなかったことが導入に至らなかった一番の要因です。受講した教員が学級経営の中で、それぞれが個別に実践するにとどまりました。しかし、受講した教員は自分の引き出しを増やすことができました。

2日間の研修

中学校の教員は連続する2日間、朝9時から始まり、夕方5時までみっちりの研修を受けた経験がほとんどありません。先生方に2日間という研修時間を理解してもらい、受講してもらうことは、ハードルがとても高かったです。

研修（ワークショップ）に参加してみて、プログラムの中身は非常に良いものだと感じました。この教材を使えば、子どもたちにとってプラスになるだろうと実感しました。

生徒指導上の課題と向き合う学校へ

平成25年度、枚方市立山田中学校へ異動となりました。平成23年、24年、山田中学校では器物破壊、校内喫煙、授業妨害、対教師暴言・暴力行為などの生徒指導上の課題が多く生起していました。山田中学校は中宮中学校の隣の学校ですので、以前から校内の状況を耳にしていました。

先生方は生徒指導に追われ、子どもたちに対応する日々。次年度に入学する1年生を絶対に荒れさせないための取り組みを続けるなど、教員たちは奮闘していました。

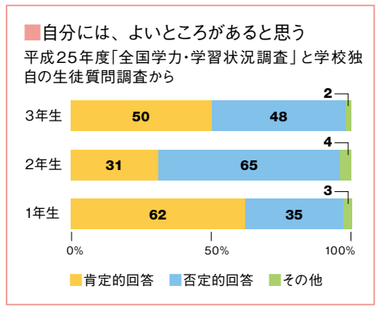
学力も自尊感情も低い

学力も、「平成25年度全国学力・学習状況調査」の大阪府の平均正答率を全ての教科や区分で下回っていました。この現状を変えていかなければなりませんでした。

またこの調査は、中学校3年生の現状に関連する調査項目も多々ありました。特に、自尊感情（＝自分には良いところがある）の項目について、2年生は非常に低く、自分に自信がもてない子どもたちが多いことに愕然としました。自分の思いをうまく伝えることができない子どもたちも多く、それが要因となり、手が出たり、汚い言葉を発してしまいます。このような状況を、教員たちはどうにかしなければいけないと感じていました。

さらに、学校に対する保護者の意識を調査する「学校教育自己診断保護者アンケート」では、学校を見る保護者の目が厳しいことがわかりました。

山田中学校はあらゆる点において大変厳しく、なんとかしなければという思いを強くしました。



スクール・エンパワーメント推進事業と人権教育

山田中学校は、「スクール・エンパワーメント推進事業（※）」の指定校となっていました。また、国の「人権教育総合推進地域事業」にも指定されていました。私は、これらの事業を活かして学校を変革しようと決意しました。

※ 開かれた学校づくりを推進し、学校と保護者・地域を「学び」でつなぐことで、中学校の学力向上をめざすとともに、市町村の学力向上の取組みを活性化させる大阪府の事業

望ましい学習集団づくりができるライフスキル教育

事業を推進するにあたり、学校・学級の中に良い空気を醸し出すライフスキル教育を使っていこうと思いました。ライフスキル教育を使わない手はないと感じたのです。ライオンズクエスト「思春期のライフスキル教育」プログラムは、9つの価値観に属するスキルを学習することができます。山田中学校の課題解決に必要なスキルが詰まっていました。よい集団を作り、スキルを系統的に学習できるこのプログラムを導入することで、子どもたちの自尊感情、自己肯定感、自己有用感を高め、互いを認め合い大切にする、望ましい学習集団の形成が可能になると判断したからです。一人ひとりが大切にされ、つながり、学び合い、確かな力を育む「学びの創造の実現」をめざしました。

導入にあたりまずはじめに、平成25年12月24日と25日の2日間、学校で研修を行いました。ちょうどクリスマス、学期末の忙しい時期でしたが、長期休みにしかできないと思い、実施しました。実施後、3学期を利用して次年度のカリキュラムを作成し、平成26年度から実施できるように計画を立てました。このスケジュールは、次年度の4月、つまり、年度初めから実施したいという私自身の考えとともに当時、学力向上・人権担当教員（後にライフスキル担当教員）も同じように思っていました。年度途中からスタートというのはなかなか難しいのです。強引でしたが12月に研修をし、次年度の4月からスタートすることをめざしました。

「組織づくり」は欠かせないポイント

導入に向けて、校内の組織体制をしっかりと組み、ライフスキル教育を担当するリーダーを1名立てました。また、各学年1名ずつライフスキル教育担当の教員も配置しました。

授業は「総合的な学習の時間」の中で実施。約80時間分のプログラム量を、3年間で40時間分に精選し、「山田中学校ライフスキル教育実施計画」を作成しました。指導案は教員間で話し合い、各クラスの実情に合わせてアレンジしました。初年度は各クラスの担任が授業を行い、2年目以降は担任以外も交えてのローテーションで実施しました。使用した指導案は専用フォルダに保存し、実践経験を貯めていきました。年度末に総括し、次年度の実施計画を策定しました。

全クラスで公開授業ができるまでに

導入2年目には校内でフォローアップ研修を実施しました。そして平成26年11月、全学年全クラスでライフスキル教育の公開授業を実施するに至り、多くの方に授業を見ていただくことができました。

「桜丘メソッド」にもライフスキル教育を

冬季校内研修実施（桜丘中学校　平成29年1月5日・6日）

そして平成28年4月に枚方市立桜丘中学校へ赴任しました。桜丘中学校では、「桜丘メソッド」と呼ばれる授業づくりの方法論（ツール）が実践研究されていました。構成的グループエンカウンターの実践も行われていましたが、対症療法的な生徒指導、総合的な学習の時間や道徳の取り組みに課題がありました。

ここでもライフスキル教育を導入していきたいという思いがありました。導入に向けてまず、他校で夏に行われたライフスキル研修に教員4名を派遣しました。ライフスキル教育に興味のあった主幹教諭1名と選抜した若手教員3名が研修に参加しました。そして11月と12月の職員会議で、次年度以降の学校の基本的方向性を指示しました。ライフスキル教育は桜丘中学校の柱のひとつと位置付け、「ライフスキル教育をやろう!」と宣言しました。

次年度のために前年度に研修を実施

2日間の研修は1月5日と6日の冬季に校内で実施しました。この時期に実施した理由は、山田中学校の時と同じです。研修の様子を写した写真をみると、先生たちみんなで相談しながら進めている姿が微笑ましいです。こうやって教員同士が顔をつきあわせてコミュニケーションをとっている姿は、なかなか見られません。

〈実践事例〉

大阪府枚方市立桜丘中学校（2）

ここでも大事なのは「組織づくり」

桜丘中学校2年生で試行実施

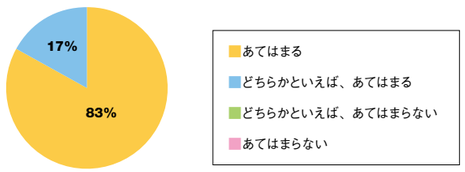
授業を10～20時間行う計画で、学校の業務分担の中で、ライフスキル教育担当リーダーも決めました。学校組織の中にしっかりとライフスキル教育の担当の役割を入れておかないと、導入・継続が難しくなります。組織づくりは非常に重要です。桜丘中学校での計画にそった授業実践はこれからですが、2年生で試行実施を行いました。

笑顔になる授業

桜丘中学校での実践では、男子と女子が斜めになるように座り（市松模様の座り方）、コミュニケーションが交差し、活動が活発になるよう工夫しました。私は、子どもたちのライフスキルの授業を受けている時の表情が好きです。みんなが楽しそうで、笑顔になる授業です。

山田中学校での成果

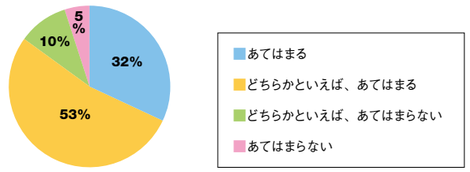
■Q. ライフスキル教育は生徒にとって有益でしたか？
山田中学校教職員アンケートから



ライフスキル教育によって感じられた生徒の変容は？

- 話を聞く姿勢が良くなった
- 相手を思いやる行動ができた
- 全員で協力して取り組む姿
- 主体的に物事に取り組むようになってきた
- グループ活動を取り入れていたので、グループ内での交流もさかんになり、発表を聞く姿勢も養えた
- 目標達成までの過程やその中で生じる課題を発見しやすくなった。実生活に取り入れている生徒もいる

■Q.ライオンズクエストのワークショップはあなたの日々の授業や指導に活かされていますか。



授業のどのような場面で活かされていますか？

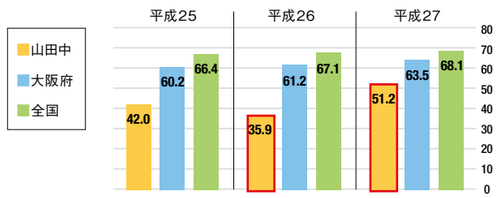
- 発表の仕方や授業のもっていき方
- 授業の導入段階での語りかけ方、子どもたちをひきつける言葉かけなど
- 授業のイメージが作りやすい、自信になっている
- 生徒自らが活動し、考えることを重視する視点（コーチングの視点）から、発問等工夫するように心がけている
- 答えを教えるのではなく、自分自身で課題を見つけたり、解決させられるような場面を作ることを意識して授業などを展開しようと思えるようになった

子どもたちの変化を調査し、記録する

山田中学校赴任時、子どもたちの自尊感情（＝自分には良いところがある）が低いことに愕然としましたが、ライフスキル教育導入後の生徒調査により改善の兆しが見られることがわかりました。学校独自で子どもたちの変化を調査し、細かく記録していくことが大切だと思います。定量的なデータは不可欠だと考えています。先生たちに数字のデータを見せることができれば、「やってよかったな」と感じることができるのです。「ここまでやってこれだけ上がったな」と示すことができます。これが、「またがんばろう!」というモチベーションにつながっていきます。

教育課程への位置付けが重要

■Q. 自分にはよいところがある
「全国学力・学習状況調査」と学校独自の生徒質問調査から



これまでの実践から、ライフスキル教育は「自尊感情（自己肯定感・自己有用感など）」「コミュニケーションスキル」「目標設定スキル」の育成に効果があると感じています。また、授業改革（アクティブ・ラーニング型の授業）にもつながっていると思います。

導入に際しては、教育課程への位置付けが必ず必要です。教員に「これは必要だ」と思わせることもポイントです。先生たちの引き出しが増えること、授業に活かせることを伝えていくことが大事です。

ポイントは「実態把握・戦略・リーダー」

実施に関しては、周到な戦略、生徒の実態を鑑みた根拠、教員の中で中心となるリーダーが必須です。校長が中心となって推進するのではなく、一人の担当教員がリーダーとなって広げていく方が、教員全体の中に実践しようとする空気を作っていくことができます。これが大事なのです。ライフスキル教育を実践することが授業改革（授業づくり）につながる意識を持ち、組織の中にはっきりと役割を位置付け、明文化することが大切です。

評価は先生たちのモチベーションにつながる

生徒の変容については、情報を共有化し、定量的評価（数値的な成果）と定性的評価（教員・生徒の実感による感想）の両方を行い、評価を計っていく必要性があります。評価は先生たちの励みになります。

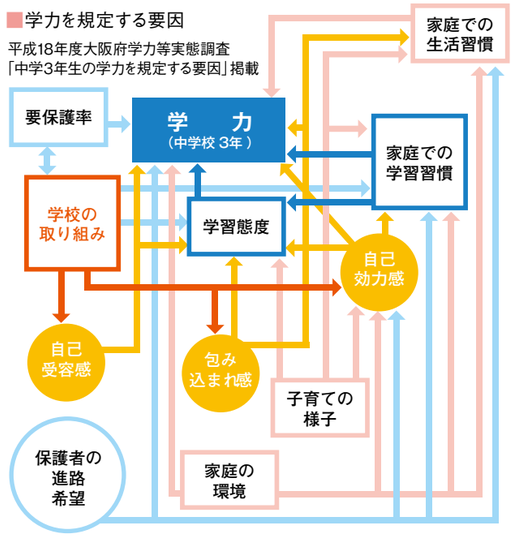
教具は集めて保管、皆で活用

授業実践では資料の収集と保管を行います。先生たちは授業の実施にあたり掲示物を作成するなど、さまざまな工夫をします。1回限りではなく、収集しておくことが大事です。

私の「仮説」

最後に、ライフスキルを説明するときの研究仮説にしていることがあります。平成18年度に大阪府で実施した「大阪府学力等実態調査」の分析結果の中で、「中学3年生の学力を規定する要因」を表した図があります。

■学力を規定する要因
平成18年度大阪府学力等実態調査
「中学3年生の学力を規定する要因」掲載



それぞれの観点が「学力」とどう関連づけられているかを示した図です。矢印の線が太いほどより強い関係性があるという意味です。

中学校における「学力」は「学校の取り組み」ではなく、別の要因が「学力」を規定している可能性が高いことがわかります。「学校の取り組み」は、❶自己受容感、❷包み込まれ感、❸自己効力感の3つに向かって特に繋がっています。これらは自尊感情と呼ばれるもので、図はこれらが「学力」を規定する要因のひとつになっています。私は、ライフスキルはこれら3つのことであると研究仮説を立てています。学校はライフスキルを意識的、系統的、意図的に発信していく必要があるのです。学校からライフスキルを育成する働きかけを行うことで結果的に学力が向上します。だからこそ、学校は子どもたちのライフスキルの育成にもっと努めなければならないと感じています。

「開発的生徒指導」

風邪をひいた子を病院で治療する「対症的生徒指導」ではなく、風邪を引かないために子ども自身が体力や栄養をつける「開発的生徒指導」がライフスキル教育だと私は思うのです。子どもの成長を促す指導をどんどんやっていく、そのひとつとしてライフスキル教育は重要な役割を持っていると思います。学校がライフスキル教育を進めることは、結果的に子どもたちの学力向上に繋がると考えています。今後もライフスキル教育を推進していきたいと思います。

＊本記事は2017年3月25日に行ったJIYD総会講演会での講演内容に基づいた内容です。

〈普及活動事例1〉

ライオンズクラブ国際協会335-B地区（大阪・和歌山）

大阪・和歌山10年の軌跡

導入のおはなし

ライオンズクラブ国際協会335-B地区 2016～2017年度 ライオンズクエスト委員長 河井幸彦

第63回地区年次大会において紹介があった次期地区ガバナー候補者のL柿原勝彦がいつも口癖のように申されている、2005年～2006年度複合地区青少年指導・ライオンズクエスト委員、地区青少年指導・ライオンズクエスト委員長に就任された時の苦労話。当時のガバナーから「お前（L柿原）ライオンズクエスト委員長をやれ！ただし、一人委員長やで！」と。L柿原もライオンズクエストというのが何のことか分からず、セミナーに参加したりして独学で猛勉強されました。これが335-B地区におけるライオンズクエストプログラム普及活動のはじまりです。

継続の源

11年余りの普及活動の中で、数えきれない多くのライオンズメンバーの関わりと尽力の積み重ねで、セミナーやワークショップ開催が実現し続けています。普及活動が続いていくのは、参加した先生方がいつも前向きな感想や声を聞かせてくれるからかもしれません。次はどんな声を聞かせてくれるかなと楽しみにもなっています。

WS参加者の声

大変有意義な時間、活動の数々でした。中1もしくは4月のスタート時からカリキュラムに組みこまれて実施できたら生徒の成長は大きくかわるだろうなと感じました。

体験しながら学べたのでとても楽しく分かりやすかったです。エネジャイザーを効果的に使えるやり方が学べたのがすごくうれしいです。学校に戻ったら道徳や総合で実際にやりたいです。とても充実していました。

2日間短いものでした。子どもを育てるために、子ども以外の環境に目を向ける等、自分自身の視野が広がったように感じます。

今後の展開

335-B地区は、北は大阪・能勢から、南は和歌山・串本に至る12リジョンから成り立ち、南北に広がっています。それ故に、ライオンズクエストプログラムの普及活動におきましても、頻繁に開催されている地域（リジョン）、セミナーすら開催できていない地域（リジョン）と温度差が目立ちます。この1年間、ライオンズクエスト委員会では、「全地域（リジョン）でセミナー開催！」を目標に努めてセミナーを開催し、その後ワークショップに繋げるといった成果が見られたところであります。

また、新しい試みとして、2日間のワークショップは学校や参加者の日程確保が難しいという課題に対応するため、2017年1月大阪府堺市におきまして1日（ワンデー）ワークショップを開催（試行）しました。さらに、大阪府枚方市で校内型ワークショップ開催時にフォローアップ研修も兼ねて実施（試行）しました。

当地区がライオンズクエストに取り組んでから10年を超えた今、「2日間のワークショップだけでは、教壇に生かしきれない。もっと研修する場はないだろうか」という先生方の要望に応えるため、『大阪・和歌山ライフスキル研究会』を設立する必要があると思います。先駆的に実践されている研究会を大阪・和歌山でも発足させ、子ども自身が自分で判断してより良い生活を目指していく生きる力を身に付ける指導ができるよう、12リジョン全てのクラブで支援したい！と思っています。

335-B地区における普及活動の経緯（2006～2016年度）

2006：メンバー対象セミナー5回開催
2007：当地区初のワークショップ開催
2008：ワークショップ1回開催、セミナー1回開催
2009：ワークショップ4回開催、セミナー1回開催
2010：ワークショップ3回開催
2011：ワークショップ4回開催、セミナー5回開催
2012：ワークショップ2回開催、セミナー3回開催
2013：ワークショップ8回開催、セミナー7回開催
2014：ワークショップ7回開催、セミナー6回開催、
　　フォローアップワークショップ開催、実践校公開授業実施
2015：ワークショップ4回開催、セミナー3回開催、公開授業実施
2016：ワークショップ6回開催、セミナー2回開催
2017：ワークショップ2回開催

（＊2017年6月末日まで）

〈普及活動事例2〉

ライオンズクラブ国際協会335-A地区（兵庫・東）

徹底した教育委員会との連携

ライオンズクラブ国際協会335-A地区では、11年余前よりプログラムの普及活動を開始し、LCIF（ライオンズクラブ国際財団）の四大交付金事業対象の青少年健全育成事業への取り組みが始まりました。委員会、ライオンズ会員の尽力により、普及活動が広がり、神戸市で開催された公募型ワークショップを受講された教育委員会研修課の方との出会いが、今日の教育委員会とのかかわりの基盤になっています。

ライオンズクラブ国際協会335-A地区 2016～2017年度 ライオンズクエスト委員長 秋本久美子

教育委員会とのかかわりによるメリット

- 教育の課題、ワークショップへの要望等の提案をいただき、勉強になる。
- 教育委員会から教育関係者・学校へ募集要項を一斉送信することにより、「ライフスキル教育」の信頼性、認知度が上がる。
- 教育委員会は学校の年間予定を把握しているので、開催日程の検討に協力していただける。
- 受講者の名簿は個人情報が守られ、完成版を送付いただくので安心。
- 教育委員会の研修センターを会場にしてセミナーやワークショップを開催するので、受講者も参加しやすく、会場費の節約にもなる。

この数年、「ライフスキル教育」は教育委員会の夏の研修プログラムとして推奨され、神戸市、芦屋市、尼崎市、宝塚市、西宮市などで継続開催されています。

神戸市教育委員会とのかかわり

神戸市では、校内型を何校か開催した後、次の学校が見つからず困っていたとき、神戸市教育委員会から関心のありそうな学校をご紹介いただき、資料を携え学校訪問し、全校先生方の意気込みを感じる素晴らしいワークショップを開催できました。教育委員会から学校へと、実践・発展しています。

尼崎市教育委員会とのかかわり

尼崎市教育委員会の研修担当の方が、神戸市のワークショップに参加され、「ライフスキル教育」に高い評価と興味を持ってくださり、翌年、尼崎市においてワークショップ開催を計画しました。しかし、当時はプログラムの認知度も低く開催があやぶまれました。

そこであきらめず、教育委員会もライオンズクラブも、青少年健全育成のために教育の大切さを思う気持ちは一緒であることを力説。その後、「今後につながるように熱心な先生方に参加を呼び掛けた」と嬉しいお話を伺い、無事に開催することができました。

すると、翌年は、開催日がお盆時にもかかわらず、「昨年参加された先生方から評判を聞いて申し込みました！」という声が多く聞かれ、熱の入ったワークショップになりました。

地区ライオンズ会員向けセミナーでの工夫

当地区のライオンズクエスト委員会は、毎年、ライオンズメンバー対象に「セミナー」を開催しています。

そのセミナーで、教育委員会のご担当者や校内型ワークショップを開催した学校の校長先生をお招きして、【教育委員会から見た現状、教育に求めるもの】、【ワークショップ後の職員室の変化・クラスの変化】などの講話をしていただきました。教育委員会、学校、ライオンズが一体となり教育の大切さを共有できたと思います。

教育委員会とのかかわりから思うこと

教育に対し、教育委員会も教員の皆さまも常に熱心に取り組まれ、特に夏の研修として何か良いプログラムはないかと探しておられます。教育委員会には、「ライフスキル教育」の内容を正しく丁寧に伝えることが大切です。教育・子どもに対する熱い愛情を持っていることをわかり合い、真摯な対応をすることにより、信頼関係を構築できます。さらに、より良い関係を継続していくには、日頃からのコミュニケーションが重要です。教育委員会、ライオンズ、JIYD、三者の担当者が、必ず情報や経過を共有すること。そして、教育委員会の協力への感謝の気持ちを忘れないことがとても大切です。

今後の活動において、ライオンズならではのアプローチで「ライフスキル教育プログラム」の普及・実践に努めるとともに、教育委員会の協力を仰ぐことにより、思いもかけない範囲まで実践拡大していく希望があると思います。

〈普及活動事例3〉

高知県土佐市・土佐ライオンズクラブ

学校・教育委員会・ライオンズクラブの3者が連携して創るワークショップ（教員研修）

高知県土佐市では、市内の小・中学校、教育委員会、地元の土佐ライオンズクラブが連携し、2011年度から毎年の夏にワークショップを開催しています。これまで186名の教員が受講しました。主に初任者と若手の教員研修として、市内の小・中学校の教員が対象です。また、ライオンズクエストの導入を目的に、市内の一校を対象とした開催も兼ねています。ワークショップの開催費用は、土佐ライオンズクラブと四国4県のライオンズクラブ組織（ライオンズクラブ国際協会336-A地区）が支援し、開催会場（市内公民館）の用意と参加者の募集はその年の担当校の学校長が行っています。

ワークショップ開催の経緯

不登校やいじめ、児童・生徒の自尊感情の低さ、といった児童・生徒を取り巻く問題が関係していました。土佐市では、不登校の未然防止、いじめの撲滅に向けた様々な取り組みが実施され、また児童・生徒の自己肯定感を高め、学校生活の満足度を高める学校・学級づくりの取り組みを充実させる方針(※)を打ち出しました。

2010年当時、土佐市教育委員を務めていた土佐ライオンズクラブのメンバーがこうした教育課題に有効性のあるライオンズクエストプログラムの存在を知り、336-A地区のライオンズクエスト関係委員会の委員長とライオンズクエスト説明員が市長と教育長にプログラムを紹介しました。まず、一人の小学校長が隣の高知市で同年7月に開催されたワークショップに参加し、翌年には、その学校長の小学校と市内の学校教員を対象とする最初のワークショップが開催されました。

(※)土佐市教育委員会「土佐市教育振興基本計画平成26年3月」
http://www.city.tosa.lg.jp/life/detail.php?hdnKey=2298
（2017年5月10日）

ワークショップ当日の運営

現在、市内の公民館を会場に開催しています。当日は、土佐ライオンズクラブのメンバーがクラブの奉仕活動（アクティビティー）として会場へ赴き、会場の設営から参加者の受付、開催中の様々なお手伝い、終了時の後片付けまで行っています。また、毎年継続して開催していることから、受講する教員も、受講者としてだけではなく、ライオンズクラブのメンバーと一緒に当日の運営に協力しています。学校・教育委員会・ライオンズクラブの3者が連携して創られています。プログラムの理念として掲げる、学校を中心として、地域で、子ども・青少年の育成を支援していく環境が形成されています。

ワークショップを受講した教員の声

多くの学びと2学期から使える教材を知ることができました。日々の生活の中での声掛けはもちろん、学級活動の時間に効果的なライフスキルの指導を生徒や児童に行うことで、キャリア形成にもつながっていくことが理解できました。2日間の経験の中で、たくさんの先生方とふれ合うことができたのも、自分のなかでの実りでした。

ライオンズクラブメンバーの声

土佐ライオンズクラブ　吉村　政男 様

近年また不登校児童生徒の増加、特に低年齢化を危惧しています。ライオンズクエストを体験され、子どもたちが「生きる力」を身に付け、不登校にならない、不登校児童生徒を作らない学校環境を目指してほしいと思います。これまでにワークショップを受講した先生方が学校を超えて市内全域の児童生徒を見守る体制づくりが整いつつあると感じています。それはワークショップを開催する一つの意義であると確信しています。

今後の展望

数字の上では、市内の小・中学校のほぼ全教員がワークショップを受講しました。しかし、毎年の異動や新規採用により受講していない教員が出てきます。これまでに受講された教員の反応や学校での授業実施の手応えから、学校と教員委員会よりワークショップの継続的な開催の要望があります。こうした声を受け、ライオンズクラブは青少年健全育成活動の一環として意義・価値のあるものと評価し、継続して支援していく考えです。今後は、異動されてきた教員や新任の教員のワークショップ参加機会を提供し、学校での継続的な実践を支援する為に、スキルアップや実践者間・学校間の交流を目的としたフォローアップ・ワークショップの開催も有効だと考えています。

〈普及活動事例4〉

広島県世羅郡世羅町・世羅甲山ライオンズクラブ

広島県世羅郡世羅町でのライフスキル教育実践

ライフスキル教育との出会い

ライオンズクラブ
国際協会336-C
地区2R2Z
世羅甲山ライオンズクラブ
幹事　瀬尾 圭三

2013年6月、地区青少年・ライオンズクエスト・LCIF委員会研修会が広島市で開催され、私は初めて参加しました。小学校低学年では、自己規律、責任感、意思決定、他者の尊重、小学校高学年・中学・高校では、コミュニケーション能力の育成、家族や友人とのよい関係の強化、問題解決や好ましい意思決定、目標設定や計画的な実施、積極的な社会参画と他の人のために活動する等々、ライフスキル教育の重要性を理解しました。

学校教育では、平成10年、文部省（現文部科学省）の指針である学習指導要領の基本理念に「生きる力」の育成が掲げられました。以来20年近く経過した今日「生きる力」は、表現は異っても、基本的には踏襲されていると思います。「生きる力」と「ライフスキル教育」はまさに共通しており、「ライフスキル教育」を学校教育に導入すれば、教育効果が一層増すことは間違いないと考えるようになりました。

学校現場の状況について

学校の内部のことは私たちには分かりませんが、ただ近年新聞紙上をはじめ、マスコミに頻繁に報道されますさまざまな問題が余りにも多いことです。小学校低学年でも学級によっては授業が成立しないケース、授業開始のチャイムが鳴ってもなかなか授業を始められないケース、生徒のいじめの問題、自殺の問題、等々枚挙にいとまがありません。表に出るケースは氷山の一角なのかもしれません。一方、先生方は、小、中、高いずれの現場でも毎日のように夜遅くになっても職員室には明々と電灯が見受けられます。仕事が多忙で大変なのだろうなと同情したくなるのは私だけでしょうか。

このような状況では、児童生徒に取り組む時間は不十分で、指導内容、指導法場等について研究する時間も十分確保することは困難かと思われます。ここにライオンズクラブが提唱するライオンズクエスト「ライフスキル教育」が生かされるものと確信します。

「ワークショップ」を地元小・中学校の先生方に受講していただければ、日常の児童生徒の指導に大いに役立ち、指導に自信が持てるようになるとの思いが日ごとに増長するようになりました。

世羅町におけるライオンズクエスト・ワークショップへの取り組みについて

1. 導入に向けた教育委員会への取り組み

地元教育委員会教育長の理解が何よりも先であることから、教育長に面会を求め、3回にわたり次の4点に絞って説明をしました。

1. ライオンズクエスト「ライフスキル教育プログラム」の内容、ワークショップの説明
2. JIYD提供のワークショップ実施結果報告書の内容、実例をじっくりと説明
3. ワークショップ受講者定員30名は、町教委管内の先生方だけでは達しないかもしれないので、町外の近隣の学校にも働きかけをさせていただきたい
4. 実施することができれば、必ず成果が上がる「とにかく一度実施してみましょう、必ずプラスになります」と丁寧に説明を繰り返すうち、「では一度実施しましょう。受講者は世羅町教育委員会の管内に限定させてほしい」との要望を出されました。

2. 1年目実施（平成26年8月7・8日、参加者30人）

町教委が共催となりましたので、参加者募集は町教委が主体的に取り組んでいただき、ライオンズクラブが小・中学校へ直接訪ねて案内することはありませんでした。講師はJIYDが派遣するライオンズクエスト認定講師で、指導方法・指導内容は素晴らしい、の一言に尽きます。実施後のアンケートの集約（ワークショップ実施結果報告書）を読めば全員が間違いなく納得されます。

3. 2年目（平成27年8月7・8日、参加者28人）、3年目実施（平成28年8月9・10日、参加者30人）

いずれも1年目と同様受講者全員大変好評で素晴らしい結果でした。いつどこで実施しても必ず成果が得られます。これがワークショップです。

まとめ（今後の課題）

ワークショップ実施は、地元教育委員会と十分連携し、教育委員会の理解が必要不可欠です。その場合、県教委、市町村教委が毎年組織的、系統的に行っている教員研修の内容を事前に知っておく必要があります。これはホームページで見ることが出来ます。受講対象教員は関係地教委管内の教員を対象とすることが望ましいと思います。受講者のフォローアップ及び教員全体のスキルアップが必要です。管理職を対象とした、セミナーに取り組みたいと思っています。

〈普及活動事例5・6〉

ライオンズクラブ国際協会332-B地区・332-E地区

（岩手）　（山形）

ワークショップとセミナーを同日に同校で開催しました！

332-B地区
2016～2017年度
青少年・ライオンズクエスト委員長
本田秀行

せっかく仰せつかったお役です。今期キャビネットを担当するゾーン内において、どうしても開催をしてみたいと考えていました。それぞれのクラブでは、青少年育成のアクティビティに多く取り組まれており、それらを通じた教育現場との縁を大切にしながら進めることができないか、更には、次期あるいは数年後に向けての種まきをと、大いに夢をふくらませました。

薬物乱用防止の取り組みをベースにしながら、子育て時代のPTA活動の縁をたどって、とりあえずは各校2名程の参加による公募型ワークショップを目標に、手探り状態で学校回りを始めました。途中、会場提供をお願いしました一関小学校の校長先生から思いもよらない意見をいただきました。「うちの学校単独(校内型)で進めてみたい。」この言葉によって、大きく前へ進めることができました。

となると、お声掛けをした各学校の校長先生には、ワークショップ2日目の模擬授業を見ていただく体験セミナーの同時開催が効果的!との提案もあり、ワークショップおよびセミナーを同日同校内で開催することが決定し、当日を迎えました。

冬休みに入ってすぐの12月26-27日の2日間、一関小学校校内型ワークショップ。そして2日目の午後の模擬授業の時間に合わせて、約3時間の体験セミナーを開催しました。

ワークショップは、校長先生を含めた先生方19名、講師の外川澄子先生のやさしくそして説得力のある指導の下で進められました。円形に配置された椅子席は、全員の顔を見ることができる唯一の形態です。子供たちに力をつけてほしいと思う内容を全員が発表し、その方向こそがライフスキル教育なのだとの認識を共有しながら、エネジャイザー、ロールプレイ、ブレーンストーミングなどの体験を経て、一人一人が大切にされる集団のあり方を体得していきました。

2日目は、資料に基づいたグループ研修と模擬授業。4グループに分かれた実践でした。現場で培った力量がこの2日間で得たプログラムによって、大きく開花してゆく姿を目の当たりにしたのでした。

一方、体験セミナーは校長先生6名、民生児童委員(主任児童委員)2名、ゾーン内ライオン7名、計15名の参加でした。前半は、グループ活動体験や映像を含めた説明をうけ、その後模擬授業を見学。参加された校長からは「うちの学校でもやってみたいが、相談にのっていただけますか?」。この言葉を励みに、次につないでゆければと思っています。

（2016年12月27日開催 岩手県一関市）

寒河江市全教員260名対象セミナー大成功！

332-E地区
2016～2017年度
ライオンズクエスト
青少年指導委員会
委員長
後藤健治

夏休みが始まって間もない7月29日、寒河江市内小・中学校の全教員260名対象のライオンズクエスト体験会が実現しました。参加者からは「大変充実した内容で、未来へつながるセミナーでした」との声をいただけました。

このセミナーは、寒河江市校長会長、教育長のご理解をいただけたことから、本来開催するはずだった校長会主催研修の「平成28年度　寒河江市教育研究所　全体研修会」を「ライオンズクエストセミナー」として開催することで実現しました。

2015年7月1日に新生ライオンズクエスト委員会が立ち上がった当地区は、本年度は委員会メンバーが2年目を迎えました。昨年度から会議を重ねて委員会の基盤を築き、メンバーの意識統一ができたことで順調なスタートダッシュとなりました。ライオンズクエストの普及活動は複数年に渡っての活動が多々あることを踏まえて、学校や教育関係の行事を随時把握しながら次年度に向けた計画を立てていくことで、今後も普及活動の推進を図りたいと考えています。年度当初に掲げた目標実現に向け、活動方針に沿って活動すべく、メンバー一同努めていきたいと思います。

（2016年7月29日開催 山形県寒河江市）

ライオンズクエスト認定上級講師 佐渡涼子先生より

今の子どもたちに特に必要だと思われるコミュニケーションスキルの授業を、小学生版と思春期版との両方を通して、プログラムが学年をわたって系統だって構成されていることを実感していただこうと思いました。実際、先生方は生き生きと楽しそうに活動され、熱心な先生は、そのまま授業に取り入れて実践されそうな勢いでした。少しでも先生方の「引き出し」の充足に役立てていれば、ありがたく思います。

（各地区の了承を得て、各地区誌より抜粋編集の上、掲載しました。）

〈普及活動事例7〉

長野県長野市立東部中学校

ベースラインの育成

- 全学年で導入
- 全学年、年間約30時間実施
- 総合的な学習の時間、学活で活用

Q.導入したきっかけは？

不適応生徒の減少、学習意欲の向上の基礎となる生徒の人間関係力、集団適応能力、社会適応能力を高めるためです。

Q.どのような効果を期待していますか？

「心の成長と感情のコントロール」の単元を通して、クラス全員が「怒り」に対する共通理解を図ることができました。今後の生活の中で、仲間との間でトラブルが起きたときに、自分の感じ方と相手の感じ方はちがうかもしれないという、ある程度客観性を持った判断ができていくことが期待されます。

また、学級内で問題が起こったときも、これまでのようにすぐに感情をぶつけ合うのではなく、よりよい解決を目指して自分の言動を考える手がかりにしていってほしいと思っています。

こうした学習や経験の積み重ねにより、自他の感情についての理解を深め、望ましい人間関係を確立する力をさらに高めていきたいと考えています。

Q.実践していく上での課題と対策は？

授業時間の確保が課題です。本校では、水曜日の6時間目に総合的な学習の時間を設定し、ライフスキルの授業にあてています。

また、学年内で統一した授業内容とするため、学年会で授業内容について打ち合わせをしています。

Q.ライオンズクラブとの連携は？

平成28年3月と平成29年4月の2回、本校を会場としたワークショップを開催していただきました。

また、地元のライオンズクラブメンバーの方には、東部中学校の「信州型コミュニティースクール運営委員」を務めていただいています。

先生の感想

年度当初の実施で、新しい集団で生活をスタートさせようと前向きになっている生徒たちが、仲間と関わる活動を楽しみながらできる姿が多く見られました。

集団のルール作りの場面で、お互いに意見交換することを通して、自分が所属する学級集団に対する思いや願いをわかり合って生活を送ることができました。

集団や生徒の実態に合わない部分や授業内容については、内容や実施時期を検討することで、生徒たちの達成感を高めたいと思います。

生徒の感想

総合でライフスキルの授業をやりました。ライフスキルってなんだろう?と私は思いましたが「生きる上で大切なこと」だということが分かりました。そして今日は、クラスみんなと友達になるということをやりました。友達に質問してサインをもらいました。みんな話しかけてくれたのでとても嬉しかったです。もっと仲良くなりたいと思いました。(1年女子)

今日の授業で知った意見は、どの班もとても良いもので、自分にとって参考になりました。ルールとしてはやっぱり仲間はずれにされている人がいるのはよくないと思うので、クラス全員で協力できるようなルールを考えていきたいです。(2年男子)

今日は参観日でライフスキルをやりました。されて嬉しい行動とされていやな行動を班ごと話し合って発表しました。結構いい勉強になりました。私の班は「悪口を言わないで、みんな仲良く過ごす」というふうにまとめました。「そのようなクラスになっていったらいいなぁー」と思いました。(2年女子)

2016年度事業報告

ニーズに合わせた新たな試みにチャレンジした一年。
ワークショップ開催形態の多様化、プログラムの中身を紹介する
書籍の出版などに取り組みました。
ワークショップ開催数も過去最高となり、
ライフスキル教育はますます広がっています。

年間ワークショップは過去最高の123回 修了者の所属は小学校教員がトップ

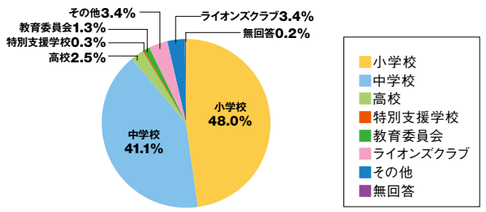
ライオンズクエストプログラムのワークショップは、プログラムの理念や指導方法について、体験的に学習する研修会です。2016年度は、全国各地で、ライオンズクラブの支援により、多くは県・市区町村の教育委員会・学校と連携して、123回開催し、2,655名が参加(修了)しました。

2016年度ワークショップ開催ハイライト

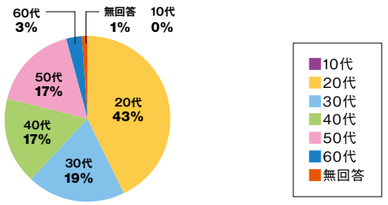
- 開催形態(※)の内訳:公募型53回、校内型70回
- 修了者の60%が20代・30代、次いで40代(17%)
- 修了者の48%が小学校教員、41%が中学校教員
- 修了者の99%が「満足した・やや満足した」と回答

(※「公募型」では参加者を開催地域から募集、「校内型」は特定の学校または校区(1校の中学校と複数の小学校)を対象に開催)

■2016年度ワークショップ修了者の所属構成



■2016年度ワークショップ修了者の年齢構成



多様なワークショップ開催形態にチャレンジしました

ワークショップの開催形態は基本的に2日間の開催のみでしたが、多様なニーズに応えるべく、さまざまな開催形態を検討し、チャレンジしました。2日間の開催が難しい場合には、開催目的と展開計画等のニーズに合わせて、今後もさまざまな開催形態を考えていきます。

- ワークショップを1.5日(2日目は半日)で修了できる
- ワークショップ2日目はフォローアップも兼ねて開催する
- ワークショップが1日で修了できる(正式導入は検討中)

「ライフスキル授業お助けレシピ」を出版しました

2016年3月、プログラム(思春期版)に収録されている授業のあらすじや実施する際のポイント、生徒の反応を記した書籍を出版しました。長年にわたって授業を実践されてきた認定講師・柴咲子先生が、豊富な経験に基づいて執筆してくださいました。

ちょっとプログラムをのぞいてみたいという方にもお勧めする、授業実施の強い“味方”となる一冊です。

説明員研修会・地区ライオンズクエスト関係者勉強会を開催しました

2016年9月24日、東京都中央区で、ライオンズクエストプログラム説明員とライオンズクラブのライオンズクエスト関係者(地区ライオンズクエスト委員会関係者)が一堂に会し、研修会・勉強会を開催しました。分科会では、説明員はグループごとに地域での活動方法を検討、地区関係者は、実際に普及活動にご尽力されているライオンズクラブメンバーの方から、各地の活動例を伺いました。会を通して、参加者同士が情報共有し、親睦を深めることができました。

韓国ライオンズクエスト導入事業支援、完了

2016年12月、韓国に2名の認定講師が誕生しました!韓国の導入支援として2014年より、認定講師養成とワークショップ開催のノウハウ提供を中心にお手伝いしてまいりました。JIYD初の海外事業支援として、ライオンズクエストの世界的な広がりの一つにかかわることができたことを嬉しく思います。今後は、ライオンズクエストプログラムの普及活動を行う同じアジアとして、韓国と連携していきたいと考えています。

LCIF四大交付金・普及拡大事業に取り組む地区は31準地区

ライオンズクラブ国際財団(LCIF)より、全国のライオンズクラブが地区単位で助成金(四大交付金)を得て、普及活動に取り組んでいます。2016年1〜12月の期間中では31準地区が取り組まれています。

ライオンズクエスト説明員69名(2016年末現在)

ライオンズクエスト説明員は、ライオンズクラブの推薦を受けたライオンズメンバーなどで、JIYDの講習を受けてプログラムの説明・模擬授業を含めたセミナーを実施できるようになった方です。地域の学校や教育委員会を訪問して説明やセミナーを開催したり、ライオンズクラブの例会や会合でプログラムを紹介したりしています。2015年7月に制度をリニューアルし、各地区の普及活動をサポートする役割も追加されました。地域のニーズに対応する普及活動に欠かせない存在となっています。

ワークショップの効果を図る国際調査が進んでいます

2015年より、フィンランドのヘルシンキ大学が中心となり実施しているワークショップの効果を測る国際比較調査へ参加協力しています。
(http://lions-quest-evaluation-project.webnode.fi/)

2015-2016年度では、フィンランド、イタリア、リトアニア、そして日本の4カ国が参加し、日本からは小・中学校教員約300名がアンケートによる調査に参加しました。また、2016-2017年度には、新たに小・中学校教員約200名の参加を見込んでいます。この調査には、ワークショップに参加した教員(介入群)と参加していない教員(対照群)が参加し、比較分析しています。

2015-2016年度の調査の分析結果は、既に学術誌や学会等で報告されています。それらの報告によると、ワークショップの受講者は、受講により、ライオンズクエストの目標の重要性についての認識がより高まり、教室で授業を実施することへの自信を深め、ワークショップ参加の価値をより高く評価していることがわかりました。また、参加4カ国の、特に日本の、其々の文化的な背景は異なるが、調査結果に特に差異は無く、ライオンズクエストに含まれる健康増進や心理社会的能力(ライフスキル)の育成は普遍的な教育課題で、どの地域でも同様の手法で学習できることが考え得る、としています。(Talvio, M., Berg, M., Litmanen, T., & Lonka, K. (2016). The Benefits of Teachers' Workshops on Their Social and Emotional Intelligence in Four Countries. Creative Education, 7,2803-2819. http://dx.doi.org/10.4236/ce.2016.718260)

アンケートの配布と回収は、調査を実施した地域のライオンズクラブや教育委員会、学校にご協力いただいています。日本からこれだけの人数の参加協力を得られていることは、地元で教育委員会や学校と密に連携し、信頼関係を築いておられるライオンズクラブのご尽力と教育委員会・学校のプログラムに対する理解と評価によるものと思います。この場を借りて、ご協力に感謝申し上げます。

2016年度決算報告（1）

貸借対照表 2016年12月31日現在

科　目	当期分	前期分	差　異
《Ⅰ資産の部》			
【流動資産】			
現金・預金			
一般口	1,112,466	3,794,104	△ 2,681,638
立替資金口 ※1	6,912,151	35,247,592	△ 28,335,441
貯蔵品	5,199,355	5,522,224	△ 322,869
前払費用	796,223	916,008	△ 119,785
立替金	0	0	0
未収入金	49,229,272	16,801,948	32,427,324
流動資産合計	63,249,467	62,281,876	967,591
【固定資産】			
什器備品	31,411	62,819	△ 31,408
敷金	300,000	300,000	0
ライフスキル教育普及事業積立預金 ※2	13,000,000	13,000,000	0
固定資産合計	13,331,411	13,362,819	△ 31,408
資産の部　合計	76,580,878	75,644,695	936,183
《Ⅱ負債の部》			
【流動負債】			
未払金	2,497,391	1,053,332	1,444,059
仮受金	0	24,000	△ 24,000
預り金	167,961	161,080	6,881
未払消費税	377,400	570,000	△ 192,600
流動負債合計	3,042,752	1,808,412	1,234,340
《Ⅲ正味財産の部》			
前期繰越正味財産額	73,836,283	76,501,487	△ 2,665,204
当期正味財産増減額	△ 298,157	△ 2,665,204	2,367,047
正味財産の部　合計	73,538,126	73,836,283	△ 298,157
負債及び正味財産の部　合計	76,580,878	75,644,695	936,183

※1. ライフスキル事業の運転資金です。
※2. ライフスキル事業に於ける中・長期積立金で、教材開発など予測される付随事業への充当、および長期に渡る活動の維持を目的としています。

活動計算書（2016 年 1 月 1 日から　2016 年 12 月 31 日まで）

（単位：円）

科　目	当期分	前期分	差　異
《Ⅰ経常収益》			
【受取会費】			
正会員受取会費			
個人	300,000	345,000	△ 45,000
法人	0	0	0
受取会費計	300,000	345,000	△ 45,000
【受取寄付金】			
使途指定寄付金	100,000	422,840	△ 322,840
一般寄付金	93,000	70,000	23,000
受取寄付金計	193,000	492,840	△ 299,840
【受取助成金-ライフスキル教育普及事業】※1			
ライオンズクラブ国際財団	63,452,965	49,823,141	13,629,824
その他	2,110,610	2,829,470	△ 718,860
受取助成金-ライフスキル教育普及事業計	65,563,575	52,652,611	12,910,964
【事業収益-ライフスキル教育普及事業】			
ワークショップ参加費収益	10,736,000	12,604,000	△ 1,868,000
その他:体験会謝礼等	2,110,337	2,081,707	28,630
事業収益-ライフスキル教育普及事業計	12,846,337	14,685,707	△ 1,839,370
【その他収益】			
受取利息	4,973	10,277	△ 5,304
雑収入			
ワークショップキャンセル料	265,000	370,000	△ 105,000
書籍売上	1,379,000	1,184,400	194,600
その他	24,000		
その他収益計	1,672,973	1,564,677	84,296
経常収益	80,575,885	69,740,835	10,811,050
《Ⅱ経常費用》			
【事業費】			
(1)人件費			
給料手当	14,535,021	14,612,819	△ 77,798
法定福利費	1,738,722	1,455,857	282,865
通勤費	685,762	794,094	△ 108,332
人件費計	16,959,505	16,862,770	96,735
(2)その他経費			
謝金※2	17,163,964	14,165,851	2,998,113
通信費	380,918	397,456	△ 16,538
荷造運賃	2,310,710	2,247,737	62,973
旅費交通費	8,082,886	6,656,716	1,426,170
WS昼食代※3	42,540	75,800	△ 33,260
消耗品費	474,829	506,274	△ 31,445
会場費	492,863	574,982	△ 82,119
家賃	1,296,000	1,296,000	0
リース料	392,409	311,220	81,189
支払手数料	124,640	111,460	13,180
印刷費※4	20,950,135	18,421,942	2,528,193
ライセンス料※5	1,559,925	1,582,402	△ 22,477
外注費	937,820	490,280	447,540
その他※6	592,611	291,788	300,823
その他経費計	54,802,250	47,129,908	7,672,342
事業費計	71,761,755	63,992,678	7,769,077
【管理費】			
(1)人件費			
給料手当	3,476,070	3,335,994	140,076
法定福利費	1,083,530	982,348	101,182
通勤費	300,290	201,930	98,360
人件費計	4,859,890	4,520,272	339,618
(2)その他経費			
支払報酬※7	287,547	309,485	△ 21,938
通信費	365,005	357,919	7,086
荷造運賃	28,921	34,529	△ 5,608
水道光熱費	123,485	123,142	343
旅費交通費	216,386	216,422	△ 36
消耗品費	177,555	228,752	△ 51,197
会場費	110,376	88,560	21,816
家賃	1,296,000	1,296,000	0
租税公課	378,303	572,045	△ 193,742
リース料	392,409	311,220	81,189
支払手数料	66,147	73,268	△ 7,121
印刷費	53,054	26,787	26,267
減価償却費	31,408	73,029	△ 41,621
その他※8	256,936	181,931	75,005
その他経費計	3,783,532	3,893,089	△ 109,557
管理費計	8,643,422	8,413,361	230,061
経常費用計	80,405,177	72,406,039	7,999,138
当期経常増減額	170,708	△ 2,665,204	2,835,912
《Ⅲ経常外収益》			
経常外収益計	0	0	0
《Ⅳ経常外費用》			
特別損失	468,865	0	468,865
経常外費用計	468,865	0	468,865
当期正味財産増減額	△ 298,157	△ 2,665,204	2,367,047
前期繰越正味財産額	73,836,283	76,501,487	△ 2,665,204
次期繰越正味財産額	73,538,126	73,836,283	△ 298,157

※1.「受取助成金- ライフスキル教育普及事業」の細目として、ライオンズクラブ国際財団のライオンズクエスト四大交付金事業に関わる受取助成金は「ライオンズクラブ国際財団」、それ以外の事業に関わる受取助成金については「その他」と表記しています。　※2.ワークショップやセミナー開催におけるライオンズクエスト認定講師および説明員への謝金、普及・広報活動におけるPR 資料の原稿執筆料、教材開発・改訂、認定講師養成、ワークショップのアンケート集計などに対する謝金です。　※3.東京ワークショップ（JIYD 共催）の昼食代です。　※4.教材、書籍、パンフレット、年次報告書、名刺等の印刷です。　※5.ライオンズクラブ国際財団（LCIF）に対するライオンズクエスト ライフスキル教育プログラムのライセンス料です。　※6.会議費、修繕費、雑費が含まれます。　※7.会計監査報酬、労務諸手続報酬、総会講演会謝金です。　※8.会議費、保険料、諸会費、修繕費、雑費が含まれます。

2016年度決算報告(2)

事業費の内訳

ライフスキル教育事業には、ワークショップの開催、セミナーの開催、教材開発・改訂事業、認定講師養成事業、評価事業等が含まれます。

広報事業には、年報の発行、ホームページの運営・管理が含まれます。

	ライフスキル教育事業	広報事業計	事業費計
(1)人件費			
給料手当	14,295,021	240,000	14,535,021
法定福利費	1,738,722	0	1,738,722
通勤費	685,762	0	685,762
人件費計	16,719,505	240,000	16,959,505
(2)その他経費			
謝金	17,159,964	4,000	17,163,964
通信費	371,786	9,132	380,918
荷造運賃	2,233,242	77,468	2,310,710
旅費交通費	8,082,886	0	8,082,886
WS昼食代	42,540	0	42,540
消耗品費	474,029	800	474,829
会場費	492,863	0	492,863
家賃	1,296,000	0	1,296,000
リース料	392,409	0	392,409
支払手数料	124,316	324	124,640
印刷費	20,857,105	93,030	20,950,135
ライセンス料	1,559,925	0	1,559,925
外注費	812,020	125,800	937,820
その他	592,611	0	592,611
その他経費計	54,491,696	310,554	54,802,250
合計	71,211,201	550,554	71,761,755

監査報告書

監 査 報 告 書

2017年2月17日

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
理事長　野村 彰男　殿

公認会計士　小坂 義人

私は、特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2016年1月1日から2016年12月31日までの事業年度の下記の計算書類について監査を行った。

1. 活動計算書及び貸借対照表
2. 財産目録

この監査に当たって、私は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を実施した。

監査の結果、法人の採用する会計処理の原則及び手続は、一般に公正妥当と認められるNPO法人会計の基準及び定款（寄付行為）に準拠しており、また、計算書類の表示方法は、一般に公正妥当と認められるNPO法人会計の基準に準拠しているものと認められた。

よって、私は上記の計算書類が特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの2016年1月1日から2016年12月31日までの事業年度の正味財産の増減の状況及び同事業年度末日現在の財産の状態を適正に表示しているものと認める。

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムと私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

2017年度事業計画(1)

2016年に引き続き、広報ツールの充実を図っていきます。
また、海外のライオンズクエスト普及活動にも目を向け、
各国と情報交換し、国内の普及活動にも役立てていきます。

ワークショップ開催形態の多様化、5つの基本形式で実施

2016年に引き続き、これまで2日間連続開催のみを基本としていたワークショップ開催形態を、多様なニーズに応えるべく、さまざまな形態で開催します。基本形式は次の5つ。これらを基本として、主催者の皆さまと話し合いながら、ニーズに合わせた開催形態を考えていきます。

形式	内容
2日間（連続）	従来の標準的な形式
2日間（スプリット）	1日目と2日目を離した（概ね1週間から数ヵ月）形式
1日（ワンデー）	1日に短縮した形式（試行中）
2日間＋フォローアップ合体型	2日目をフォローアップと兼ねて開催する形式（試行中）
大学授業	京都教育大学で実施している「ライフスキル教育授業」

フィンランド視察

年一回、ヨーロッパ地域では、同地域のライオンズクエスト認定講師、並びに関係者を集めた「ライオンズクエストヨーロッパ会議(LQEM)」が開催されており、2017年1月にフィンランドで開催される会議に、日本から北山認定講師、西田理事、馬渕事務局長の3名がオブザーバーとして出席。LCIFが、ライオンズクエストの普及活動が最も革新的であると評価しているヨーロッパの取り組みに触れる貴重な機会となります。また、現地の学校を視察する計画もあり、それらも含め、日本の普及活動に活かしていきたいと考えています。

ライオンズクエストプログラムの紹介映像が完成

ライフスキルとは？ライオンズクエストとは？子どもたちの感想は？現場の声は？そんな疑問は、この映像を見ればバッチリです。ぜひ一度ご覧ください。

〈収録内容〉

- Part1　ライフスキル教育とは？
- Part2　全員が意見を言う授業
- Part3　スキルを学ぶ意義
- Part4　学級が変わる
- Part5　ライオンズクラブが支援する研修会
- Part6　おわりに

▽映像はホームページから視聴可能です。
また、DVDとして購入できます。
http://lionsquest-japan.org/dvd_1703/

2017年度事業計画(2)

「幼稚園／保育園版」導入、「思春期版・小学生版」改訂に向けて

近年、保育士や幼稚園教諭の参加が少しずつ増えてきました。未就学児にもライフスキル教育を届けるため、2017年7月より「幼稚園／保育園版」教材を導入する予定です。未就学児のうちから「けってい」・「きもち」などを学ぶことができます。早期からライフスキル教育に触れることで、より身につきやすくなると考えています。

また、数年来の課題である思春期版の改訂は、小学生版の全面改訂に合わせて計画を進め、2018年度中の導入を目指しています。

「ワークショップハンドブック」と「ホームページ」がつながります！

2017年夏、「ワークショップハンドブック」をリニューアルします。ワークショップで学ぶプログラムの考え方や手法、昨今話題の「アクティブラーニング」や「道徳」とライオンズクエストとの関連についても掲載します。よりコンパクトに要点をまとめ、ワークショップに参加しながら、参加した後の復習にも有効な一冊です。これまでは、ワークショップ参加者のみに配布していたハンドブックでしたが、今後は一般販売する予定です。プログラムのつくりを知りたい、ワークショップのポイントを知りたい方にご活用いただけます。

そして、要点をまとめたハンドブックはホームページとつながります。ホームページでは、ハンドブックに掲載している各テーマの詳細な説明や、ライオンズクエストとの関連を紹介する予定です。

ライオンズクエスト・ワークショップの効果を計る国際調査に協力、参加します！

フィンランドのヘルシンキ大学が中心となって、ライオンズクエストプログラムを導入している国々が参加協力して、ワークショップの効果を計る国際比較調査に取り組んでいます(2015-2016年度の実施については、「2016年度事業報告」をご参照ください)。2016-2017年度は、参加協力する国を拡大して実施する予定で、日本も引き続き調査に協力していきます。

「説明員研修会・地区ライオンズクエスト関係者勉強会」を開催します！

ライオンズクエストプログラム説明員の研修と、各地のライオンズクラブの地区ライオンズクエスト委員会関係者の皆さまに各地の普及活動状況などを知っていただく機会として、「説明員研修会・地区ライオンズクエスト関係者勉強会」を今年も開催します。皆さんでライオンズクエストについて考え、意見交換していきます！概要(予定)は以下の通りです。

- 2017年9月23日(土)午前10時半～午後5時
- 日本印刷会館・会議室にて(東京都中央区新富1-16-8)

台湾ライオンズクエスト導入事業への支援

2016年度に完了した韓国のライオンズクエスト導入事業に続き、海外導入事業の支援として、台湾におけるライオンズクエスト導入事業のお手伝いに取り組みます。JIYDは認定講師養成事業支援と、ワークショップ開催のノウハウ提供を中心に支援していきます。

Facebook運用中

https://www.facebook.com/lionsquest.japan

ライオンズクエストプログラムのFacebookを運用中。関係者や実践者間のネットワークづくり、日々の活動を紹介、情報提供しています。

会員・寄付者・理事会・講師

2016年度会員 (2016年12月末日現在)

◯個人:48名

石原 典子　大島 賢三　西園寺 裕夫　島田 佳宣
田上 敬子　田川 薫　成瀬 健生　西木 宣雄
降矢 千秋　武藤 博昭　百田 勝彦　山田 礼子

2016年度寄付者 (2016年12月末日現在)

◯法人・団体

トヨタエルアンドエフ東京株式会社

◯個人:8名

※上記の会員、並びに寄付者の法人名・個人名は、掲載をご承諾頂いた方のみ掲載しています。(敬称略、五十音順)

理事会 (2017年4月1日現在)

理事長	野村　彰男	公益財団法人日本国際連合協会　理事
		特別非営利活動法人フォーリン・プレスセンター　理事
理事	中雄　政幸	特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム　ファウンダー(前事務局長、L.)
	栗田　收司	元日本ビクター株式会社取締役
	西田　浩子	公益財団法人かめのり財団　理事・事務局長
	小西　宗仁	ライオンズクラブ国際協会333-C地区　地区名誉顧問・元地区ガバナー
	佐渡　涼子	ライオンズクエスト認定上級講師
	北山　敏和	ライオンズクエスト認定講師
		健康教育講師
	足達　靖彦	ライオンズクラブ国際協会335-C地区　名誉顧問・元地区ガバナー
		ライオンズクラブ国際協会335複合地区　ライオンズクエスト委員長
		学校法人明珠学園理事、京都翔英高等学校副校長
	馬渕　英晃	特定非営利活動法人　青少年育成支援フォーラム　事務局長兼務
		ライオンズクエスト　カントリーディレクター
名誉理事	守隨　武雄	パナソニック株式会社　客員
	藤本　厚子	元幼稚園教諭
監事	山本　和夫	東京ライオンズクラブ所属
		公認会計士

(L. ＝ライオンズメンバー)　(就任時期順)

ライオンズクエスト認定講師 (2017年4月1日現在)

岡松　佐知子　(スクールカウンセラー・臨床心理士)
北山　敏和　(青少年育成支援フォーラム理事　健康教育講師)
佐渡　涼子※　(青少年育成支援フォーラム理事　元中高英語非常勤講師　カウンセラー)
篠田　康人　(私立小中高等学校教諭)
柴　咲子　(元公立中学校教諭)
嶋田　祐子　(元公立中学校教諭)
寺本　之人　(公立学校教諭　元教育委員会指導主事)
外川　澄子　(元公立小学校長)
中村　千恵子　(元公立中学校教諭)
原田　達明　(公立中学校講師　元公立小・中学校教諭、元公立高等学校講師)

(※認定上級講師、五十音順)

JIYDのネットワークと活動

皆様のご理解・ご支援をいただきながら、事業パートナーと協同して、
「ライフスキル教育」の普及に取り組んでいます。

ライオンズクラブ国際協会(LCI)

世界中に4万6千を超えるクラブ、140万人以上の会員を有する世界最大の奉仕団体で、210の国・地域でメンバーは地域奉仕に取り組んでいます。ライオンズクラブの活動分野は、視力関係、地域奉仕活動、環境、災害救援など、多岐にわたり、ライオンズクエストプログラムの普及を含む青少年育成はその一つです。

○JIYDは、LQ実施団体として、ライオンズクラブによる普及活動をサポートするとともに、協同して普及活動に取り組んでいます。

ライオンズクラブ国際財団(LCIF)

人類の奉仕に貢献することを目的に、LCI により設立されました。2002 年にライオンズクエストプログラムの著作権を取得し、同財団の青少年健全育成プログラムとして、世界各国のライオンズクラブによる普及活動を支援しています。

○JIYDは、2003年以降、LCIFより日本におけるライオンズクエスト実施団体として指定されています。

International Youth Foundation (IYF、国際青少年育成財団)

ライオンズクエストプログラムを開発したリック・リトルにより1990 年に創設されました。青少年の置かれている状況と将来展望を改善すべく、世界各地の団体とパートナーシップ関係を結び、各地の青少年のニーズに合致した事業を見出し、広めています。

○JIYDは、1997年にIYFの日本事務局(IYF-Japan)として設置され、2002年にNPO法人化して以降、現在もGlobal Partner Networkのメンバーです。

企業・団体・個人

JIYD の事務局運営や「ライフスキル教育」普及事業に対して、ご支援をいただいています。

JIYD

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム

VISION

すべての青少年が、右記にあげる「5つの財産」をもって成長していくことのできる社会を目指します。

1. 無条件に受け入れる大人が一人でもいる
2. 眠り、遊び、学び、「居る」ことのできる安全で安心できる場所
3. 心身ともに健康な生活習慣
4. 人のためになることをする機会
5. 社会人として自立できる技能、知識、価値観を身につける機会

MISSION

より多くの青少年に、よりよく役立つプログラムの拡大・強化・普及を効率的に進め、青少年の健全育成に寄与する。

ライフスキル教育普及事業

ライオンズクエスト

○普及活動

ワークショップ開催
プログラム導入・実施支援
セミナー開催
教材開発・改訂
評価事業
認定講師養成

教育行政
学校
教員
青少年活動指導者

子ども
青少年